

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.10

カタツムリ

♪でんでんむしむし かたつむり～♪今日の話題は、あの「カタツムリ」です。
昇降口前の通路の屋根あたりによくいます。(ちなみに、今、でんでんむしむしと書きながら、あれ？この語源は何だろう？と調べてみました。すると、「ででむし」出る！出る！虫だそうです。謎が謎を呼ぶので、終わりがありません！いろいろ調べてみてね。)「カタツムリ」は梅雨の風物詩としてイラストなどにもよく登場します。

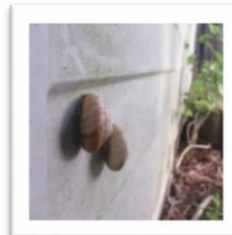


通路の屋根

中でも、「アジサイにカタツムリ」という構図のイラストはよく目にしますが、カタツムリは(それ以外の生物も)アジサイの葉を食べません。(食べるといっても、芋虫のようにモリモリかじっていくわけではなく、表面をなめとる、という感じです。)それは、アジサイの葉に「毒」(基本、どの植物にも大なり小なり「毒」はあります。1年の国語「ダイコンは大きな根？」で学習しましたね。)があるからです。(今度、学校のアジサイをよく見てください。虫にかじられたような跡、「カタツムリ」が這った跡もあります。)さて、では「カタツムリ」とは何なのでしょう？それは、陸にいる「巻貝」です。「貝」というからには、もちろん、その「貝殻」も成長に合わせて大きくなっていきます。では、この「貝殻」は、どうやって作られるのでしょうか？

突然ですが、あなたは、コンクリートの上で「カタツムリ」を見かけたことはありませんか？湿気のあるとき、雨が降った後、カタツムリは結構コンクリートの塀にいます。では、「カタツムリ」は何をしているのでしょうか？それは、「食事」

です。食事といっても、お腹が空いたといった類(何と読むでしょう？正解は「たぐい」です。漢字にすると意味が分かりやすいですね。)というよりは、コンクリートの中の「石灰分」が雨などで染み出てきたのをなめて、自分の「貝殻」の成分にしているのです。



校舎の横かべ

また、「カタツムリ」の生殖は少し変わっています。「カタツムリ」は「雌雄同体」の生物(どんな生物だろう？調べてみよう。思いのほかたくさんいますよ。)で、自分だけでも生殖することが可能です。ただ、この場合、あまり良い結果につながらないので、この生殖方法はできるだけ避けます。

さて、「カタツムリ」といえば、知る人ぞ知る、「ロイコクロリディウム」という寄生虫が有名です。この寄生虫は「カタツムリ」の脳を操り、通常の「カタツムリ」では絶対とらない奇妙な行動をとらせます。①晴れた日に②葉や茎の先端に上らせ③あろうことが、その触覚に入り込みたくまだらに(まるで芋虫のように)見えるようにするのです。もちろん、普通の「カタツムリ」は鳥に見つかり「餌」になりたくないのに、このような行動はとりません。では、なぜ、このような行動をとらせるのでしょうか？それは、この寄生虫が本来の宿主「鳥」にたどり着きたいからです。かくほど左様に生物の生き残り戦略は容赦がありません。では、この寄生虫は「鳥」に終生しがみついていたらいけないか、何もこんな面倒な「渡り」をしなくても……。と思うかもしれませんが、一つの生物で完結してしまうと、その生物に何かあったとき、共に絶滅してしまう恐れがあるので寄生虫は「渡り」歩くことが多いのです。この合理性、驚きの一語です。さあ、今日から「カタツムリ」を見る目が変わってきましたね！「梅雨」も楽しめますよ！